

## 兵庫型「体験教育」主要6事業概要

名称	対象学年	目的	実施時期・期間	活動内容	開始年度	負担割合
環境体験事業	公立小学校 3年生 (全員)	自然環境に親しむことにより、命の大切さや自然の美しさなどに感動するところなど、精神的な豊かさを育成する。	年間3回以上	自然に触れ合う体験型環境学習の実施 (里山、田畑、水辺などにおける校外環境体験活動) * 自然学校への系統性を持たせる	H19 (H21 全校実施)	県：市町 / 1 : 1
自然学校推進事業	公立小学校 5年生 (全員)	学習の場を教室から豊かな自然の中に移し、さまざまな活動を実施することにより、心身ともに調和のとれた児童を育成する。	4泊5日以上	施設宿泊の中で、周辺の自然についての学習や、地域とかがわりのある活動の実施 (活動例) 自然観察、登山・ハイキング、ナイトハイク、川遊び、野外炊事、テント泊、キャンプファイヤー、魚釣りなど	S63	
青少年芸術体験事業 ~わくわくオーケストラ教室~	公立中学校 1年生 (全員)	音楽を愛好する心情を育むとともに豊かな情操を養い、感性豊かな人材を育成する。	年間1回 (年間 40公演)	県立芸術文化センターにおいて、兵庫芸術文化センター管弦楽団による参加型の鑑賞教室の実施	H18	県：公演費用 市町：交通費(遠方は県1/3補助)
地域に学ぶ 「トライやる・ウィーク」	公立中学校 2年生 (全員)	地域や自然の中で主体性を尊重した様々な体験活動を通して「生きる力」を育成する。	6月又は11月を中心とする1週間	職場体験、福祉体験、勤労生産活動など、地域における様々な体験活動の実施	H10	県：市町 / 1 : 1 (1cl 30万円上限)
高校生地域貢献事業 ~トライやる・ワーク~	県立高等学校 1年生を中心	積極的に地域を支える人材としての自覚と態度を養う。	年間を通じて随時	クラス・グループ単位で、地域社会の発展に結びつく各種貢献活動の実施 ・文化・芸術・スポーツ振興活動 ・保健、福祉増進活動 ・地域安全活動 ・環境保全活動	H17	県 100%
高校生就業体験事業 ~インターンシップ推進プラン~	県立高等学校 2年生を中心	学校段階でのキャリア教育を推進し、社会人・職業人としての基礎的・基本的な資質を身に付けさせる。	3日~5日間程度	・将来の進路等に関連した事業所等における就業体験 ・地域の職業人、キャリアアドバイザー等による進路講演会 ・職業ガイダンス ・職業体験活動の実施 等の実施	H17	県 100%

## 兵庫型「体験教育」の主要各事業の概要

事業の名称	環境体験事業	担当課	義務教育課	開始年度	平成19年度
対象学年	公立小学校3年生(全員)		実施時期・期間	年間3回以上	
〔目的〕 生涯にわたる人間形成の基礎が培われる発達段階において、自然に対する畏敬の念をはじめ、命の大切さ、命のつながり等を実感させるとともに、美しさに感動する豊かな心をはぐくむ体験型環境学習を継続的に実施する。					
〔活動内容〕					
1 事業のあゆみ					
(1) 平成19年度から年次計画により実施校を広げ、平成21年度から公立全小学校を対象に実施。					
(2) 全校実施の円滑な推進に向け、自然学校推進事業との関連させた実施期間や方法の弾力化。					
	平成19年度	平成20年度	平成21年度		
実施校数	212校(26%)	508校(62%)	805校(3年生が在籍する全校)		
2 実施概要(平成21年度)					
(1) 活動内容(重複あり)					
学習内容	具体的な活動例			学校数(割合)	
里山での体験	かぶと虫の飼育、クヌギの苗づくり・植樹、下草刈り等			345校(42.9%)	
田や畑での体験	米作り、黒大豆や綿花の栽培、棚田の自然観察等			402校(49.9%)	
水辺での体験	ホタルの飼育、希少植物の栽培、水辺の生き物の観察等			338校(42.0%)	
地域の自然の中での体験	草花や昆虫の観察、野鳥観察、自然を活用した体験型学習等			394校(48.9%)	
(2) 特色ある取組事例					
ア 命の営みやつながり、命の大切さを感じるプログラム					
地域特産の浅黄豆を、地域の指導者を招き、一粒の種から世話し続け収穫する活動を通して、命の不思議さやつながりについて実感することができた。またその種を次年度の3年生に引継いだ。					
イ 興味・関心を生かし、生き物の多様性など地域の自然の良さに気付くプログラム					
地域の方とふれあいながら校区の自然にいる日本ミツバチの世話や蜂蜜の収穫体験を通して、命の営みや自然の営みを五感で感じ、自然を大切にしようとする意識が高まった。					
3 アンケート等に基づく成果					
(1) フィールドに出かけていき、自然の変化や息づく生命に直接触れたり、作物を育てたりする体験等を通して、 <u>自然を大切にし、生命を尊重することについて学ぶことができた。</u>					
(2) 3回以上の体験活動を継続していく中で、季節の移り変わりによる自然の変化や生息場所の違いによる生き物の違いなどに気づき、 <u>自然に対して興味を持つようになった。</u>					
(3) 地域の人々との触れあいにより、 <u>地域の人々の自然に対する思いや温かさを感じ、地域や地域の自然を大切にしようとする意識が高まった。</u>					
4 課題(平成22年度の重点項目)					
(1) 小学校6ヶ年を見据えた系統的な実施					
・自然学校推進事業との一層の関連実施を図るとともに、総合的な学習の時間等、教育課程上に明確に位置づけ、教科、道徳との関連性を図りながら、相互に教育効果を高める取組を行う。					
(2) 質的な深化に向けた活動内容の充実					
・四季の変化を五感で感じるプログラムや命の営みやつながり、命の大切さを感じるプログラムの工夫					
・地域の自然の中に出かけ、地域の人々とのふれあいを通じた活動の重視					
〔推進体制〕					
環境体験地域支援委員会(学識経験者、行政関係者、学校関係者、フィールド関係者等で構成)					
各教育事務所及び教育振興室(9地域)に設置し、地域の特性を生かした体験環境学習プログラムや実施手法を提案し、事業の円滑な実施を推進するとともに、学校における事業実施の支援を行う。					
地域環境学習コーディネーター・ひょうごグリーンサポータークラブ運営協議会					
自然観察指導者や環境体験活動を日常的に支える農業従事者等の支援者及びフィールドについて、県民局ごとに地域環境学習コーディネーター等を配置し、教育事務所、教育振興室、市町教育委員会を通じ、学校に対する情報提供及び調整を行う。					
〔予算措置〕					
平成22年度県予算額 107,447千円(県:市町/1:1(自然学校推進事業と一体化))					



水生生物調査

## 兵庫型「体験教育」の主要各事業の概要

事業の名称	自然学校推進事業	担当課	義務教育課	開始年度	昭和63年度
対象学年	公立小学校5年生(全員)		実施時期・期間	4泊5日以上	
〔目的〕					
学習の場を教室から豊かな自然の中へ移し、児童が人とふれあい、地域社会への理解を深めるなど、様々な活動に取り組むことを通して、心身ともに調和のとれた児童の育成を図る。					
〔活動内容〕					
1 事業のあゆみ					
(1) 昭和63年度から実施校を広げ、平成3年度から公立全小学校を対象に実施。(本年度で23年目)					
(2) 平成9年度には自然学校推進事業検討委員会を設置し、『自然学校10周年記念誌』を発行。平成19年度には自然学校評価検証委員会を設置し、『自然学校推進事業20年目の評価検証 生きる力を育む自然学校』を発行。					
(3) 平成21年度からは、 <u>公立全小学校3年生を対象に実施する環境体験事業との関連を図りつつ、実施期間を5泊6日から4泊5日以上とするなど、自然学校の弾力的な実施を推進。</u>					
2 実施概要(平成21年度)					
(1) 実施校数等					
実施校数		参加児童数			
803校(5年生が在籍する全校)		53,874人			
(2) 特色ある取組事例					
ア 集団活動を充実させ、社会性を育む取組					
4泊5日全日程でテント泊を実施し、野外炊事、ドラム缶風呂、自然学校新聞づくり等を通して友達との関わりが個人 グループ 全体 個人と変化するようにプログラムを工夫した。					
イ ダイナミックに自然とふれ合う活動を行うなど、感動体験をさせる取組					
朝3時に起床し、月明かりの中、自然の雄大さや神秘さを感じながら頂上を目指すサンシャイン登山を行った。頂上では、消え行く月の正反対から太陽が昇る様子に子どもたちは歓声をあげた。その後、雲海を眺めながら暗闇が明けゆく時間を共有した。学校や家庭でも得難い体験ができた。					
3 成果(自然学校評価検証委員会提言(H20.3)等より)					
(1) 自然の美しさや神秘性、厳しさなどにふれ合うことで <u>豊かな感性や知的好奇心、探究心がはぐくまれている。</u>					
(2) <u>自主的・自立的な態度や社会性をはぐくむとともに、家庭での生活における基本的な生活習慣を大切にする意識を培うきっかけとなった。</u>					
(3) 活動を通じて、 <u>自分自身や他者の長所や能力などを発見する機会となるとともに、自立心や忍耐力、問題解決能力等を育てる機会となった。</u>					
(4) 現地の人との交流を通して、 <u>その土地の文化や暮らしにふれ、人間としての在り方、生き方を考えさせる機会となるとともに、その土地の文化や暮らしに興味を持つきっかけとなった。</u>					
(5) 自然学校を通して子どもの成長に関して保護者と意見交換をしたことが家庭との連携を図るきっかけとなった。					
4 課題					
(1) 自然学校評価検証委員会(H19)が提言した「6つの方策」をもとに、各学校で創意工夫した取組を進めること。		提言「6つの方策」 方策1 自然学校と他の教育活動との関連を図る取組の充実 方策2 事前・事後の学習活動の一層の充実 方策3 学校では得難い体験活動プログラムの一層の充実 方策4 社会性や自立性等を育むための集団活動の充実 方策5 子どもの成長過程を踏まえた体験活動の充実 方策6 家庭や地域との一層の連携を図る取組の充実			
(2) 教員等の引率について、教育効果の面などから、2泊3日以内の引率体制を図ること。					
〔推進体制〕					
自然学校推進の中核施設として「 <u>県立南但馬自然学校</u> 」を平成6年度に開設する。					
技術指導員(601人)、指導補助員(1,526人)、救急員(606人)の確保による人的支援。					
( )内の数字は平成21年度登録者数					
〔予算措置〕					
平成22年度県予算額 504,212千円(県:市町/1:1(環境体験事業と一体化))					




環境学習と関連させた木を害虫から守る活動

## 兵庫型「体験教育」の主要各事業の概要

事業の名称	青少年芸術体験事業 ～わくわくオーケストラ教室～	担当課	義務教育課	開始年度	平成18年度
対象学年	公立中学校・特別支援学校中学部・中等 教育学校前期課程の1年生（全員）	実施時期・期間	年間40公演 (1公演当たり1時間程度)		
〔目的〕 芸術文化に親しむ体験活動の充実を図り、豊かな心を育成するため、県立芸術文化センターにおいて、同管弦楽団による鑑賞体験（佐渡裕芸術監督企画）を実施する。					
〔活動内容〕					
1 事業のあゆみ 平成18年度から、全公立中学校1年生を対象に実施。（本年度で5年目）					
2 実施概要（平成21年度）					
(1) 実施校数等					
参加校数 361校					
参加生徒数 47,871人、引率教員数 3,190人、その他希望する保護者 982人					
(2) 内 容（39公演実施（1公演 警報発令のため中止））					
ア ホール体験教室					
エントランスからホールに入るまでの導入部、オーケストラの登場も含めた音楽鑑賞の仕方についての体験をする。施設の概要を知るとともに、効果音や照明などステージを支えている機能について体験する。					
イ 鑑賞教室					
楽曲の紹介					
楽曲の背景となる文化・歴史について映像等を活用して具体的に理解を促したり、個々の楽器の演奏の仕方や音色の特徴などを臨場的に体験し、音楽の多様性を直接感じ取る。					
楽器の紹介					
弦楽器、管楽器、打楽器等の種類や奏法について学ぶことを通して、オーケストラがどのようにして全体として演奏ができるのかを体験する。					
鑑賞（一度は聞いたことのあるクラシックなど）					
迫力ある本格的な生の演奏の楽しさを体験するとともに、手を使ったり、声を使うなどによる音楽表現等、何らかの形で生徒が参加する音楽体験を通じて音楽への興味・関心を高める。					
3 平成21年度アンケート結果に基づく成果					
「わくわくオーケストラ教室」で感じたこと		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
生徒にとって「わくわくオーケストラ教室」は貴重な体験になった	学校	63.2%	35.3%	1.5%	0.0%
	生徒	63.1%	29.9%	4.6%	2.4%
来年度の1年生にも体験させたい	学校	41.2%	48.5%	7.4%	2.9%
「わくわくオーケストラ教室」の生演奏がよかった	生徒	78.5%	17.6%	2.6%	1.3%
4 課 題					
(1) より充実した体験活動になるようなプログラム内容や演出等の工夫					
(2) 交通費補助の拡大及び弾力的な運用への対応					
〔推進体制〕					
プログラム及び公演の実施については、県立芸術文化センターに事業委託。					
参加校の抽出による、アンケート調査（教師・生徒）を実施し、調査結果や感想の集約を次年度の活動に生かす。					
〔予算措置〕					
平成22年度県予算額 公演 125,538千円、バス補助 5,000千円					
バス借上げに要する経費で、1台あたりの借上げ費用10万円を限度として、1/3以内を補助					
【補助対象市町域】西播磨地域、但馬地域、丹波地域、淡路地域、中播磨地域（姫路市を除く）、北播磨地域（三木市、小野市、加西市を除く）					



## 兵庫型「体験教育」の主要各事業の概要

事業の名称	地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」	担当課	義務教育課	開始年度	平成10年度
対象学年	公立中学校、市立特別支援学校中学部、県立中等教育学校前期課程2年生の生徒全員	実施時期・期間		原則、6月又は11月を中心とする1週間(連続する5日間)	
〔目的〕					
地域や自然の中で主体性を尊重した様々な体験活動を通して、豊かな感性や創造性など自らを高めたり、自分なりの生き方を見つけることができるよう支援したりするなど「心の教育」の充実を図るとともに、地域に学び、共に生きる心や感謝の心を育み自律性を高めるなど「生きる力」の育成を図る。					
〔活動内容〕					
1 取組の概要					
(1) 生徒の興味・関心をもとに、地域や学校の実態に応じて創意工夫し、職場体験やボランティア・福祉体験、農林水産体験等の体験活動を行う。					
(2) 体験活動は、班単位で行うこととし、班毎に1名の指導ボランティアを充てる。					
2 実施概要(平成21年度:5月8日~1月15日)					
(1) 参加生徒数等					
・実施校数 369校(全公立中学校351校、県立中等教育学校1校、市立特別支援学校17校)					
・参加生徒数 47,271名(16,487班(1班平均2.9名))					
・活動場所数 15,893カ所(生徒3名につき1カ所)					
・指導ボランティア数 20,093名(生徒2.4名につき1名)					
(2) 体験活動内容					
・活動分野 職場体験活動(82.6%)、ボランティア・福祉体験活動(7.0%)、文化芸術創作体験活動(4.5%)、農林水産業体験(2.8%)、その他(3.1%)					
・活動内容(上位10)					
幼児教育(21.1%)、販売(19.3%)、役所・消防署等(8.0%)、飲食店(6.4%)、社会福祉施設(5.4%)、製造・建築(4.9%)、小学校・高校・大学(4.6%)、文化・芸術創作活動(4.5%)、スポーツ・体育施設等(3.7%)、ホテル・理美容(3.4%)					
3 成果(「10年目の評価・検証(H20.3)」より)					
(1) 生徒の成長					
・自己認識の深まり・自己変容の実感 ・人間関係の深まり					
・生活や学習の基礎づくり ・職業観・勤労観の深まり					
(2) 学校・教職員への影響					
・生徒理解の深まり ・開かれた学校づくりの推進					
・将来を見据えた指導の展開					
(3) 家庭へ影響					
・家庭におけるコミュニケーションの充実					
・家庭の教育機能の向上					
(4) 地域社会・受入先への影響					
・生徒理解・学校理解の深まり ・地域の教育力の向上					
・県民の参画と協働の促進					
					
〔消防署でのレスキュー体験の様子〕					
4 課題(「10年目の評価・検証(H20.3)」より)					
(1) 原点を踏まえた活動の深化					
趣旨を再確認するとともに生徒一人一人の社会的自立に向けた取組の一層の充実					
(2) 事前・事後指導の充実					
活動に向けての意欲を高め、目的を明らかにする事前指導、体験で学んだことをその後の生き方に生かすための事後指導のさらなる充実					
(3) 生徒と地域とのつながりの深化					
地域の後継者である生徒が地域のよさやふるさとの恵みにふれることができるよう「トライやる」アクションを推進するなど、生徒と地域のつながりの一層の深化					
(4) 教育支援システムの活性化による地域コミュニティづくりの推進					

校区推進委員会を中心とした教育支援体制の在り方について、原点に戻って見直すなど、「地域コミュニティの構築」に向けた取組の充実  
 (5) 行政による支援の継続及び充実  
 事業の定着に、県と市町が設置した「推進協議会」の果たした役割は大きく、より多くの県民の参画を推進するなどの行政サイドの働きかけの継続と充実

〔推進体制〕

兵庫県「トライやる・ウィーク」推進協議会

各構成団体の協力体制の確立についての協議、事業の円滑な実施に向けた啓発及び協力依頼。

- ・構成メンバー [知事、教育長、兵庫県防犯協会連合会、民生児童委員連合会、日本労働組合総連合会兵庫県連合、兵庫県商店連合会等 51 団体代表]

市町「トライやる・ウィーク」推進協議会

各市町における推進体制の確立、事業の円滑な実施に向けた関係団体等への啓発及び協力依頼。

- ・構成メンバー [市町教育長、連合自治会長、社会教育関係団体代表、商工会代表、ボランティア代表、校・園長代表 等]

中学校区「トライやる・ウィーク」推進委員会

各中学校区等における各種団体代表による実施内容、実施形態等の検討。

- ・構成メンバー [中学校長、PTA 協議会長、地域団体代表、事業所代表 等]

〔予算措置〕

平成 22 年度県予算額 204,321 千円 (県：市町 / 1 : 1 (1 クラス 30 万円上限))

< 参考資料 >

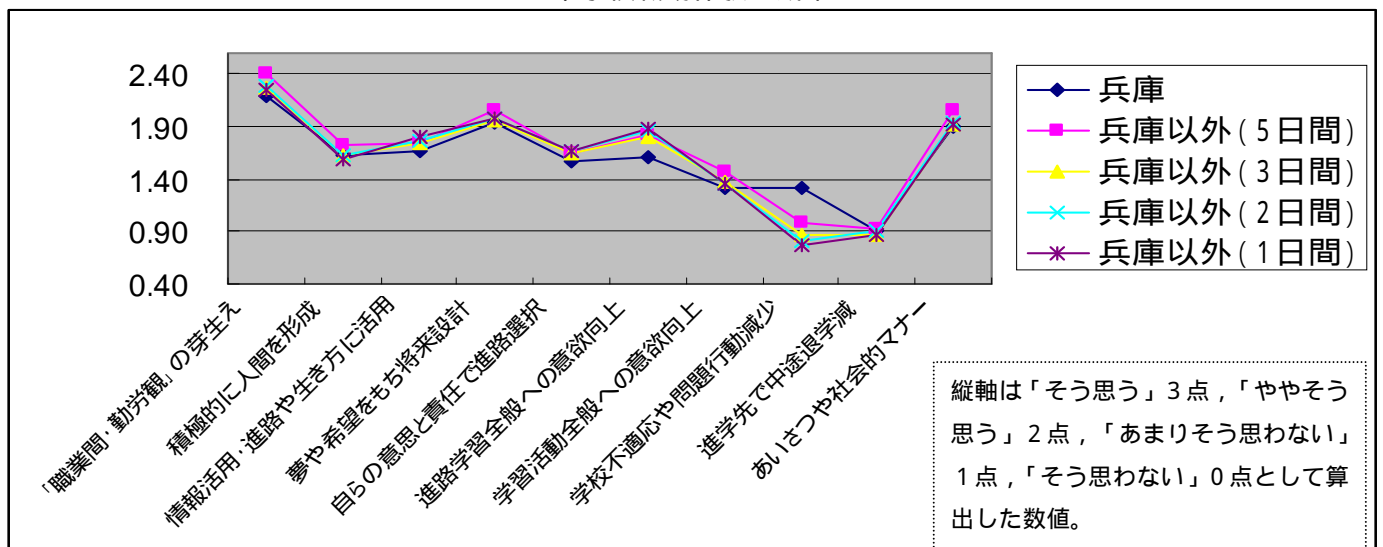
平成 21 年度公立中学校職場体験実施状況及び職場体験の成果

(国立教育政策研究所生徒指導研究センター「職場体験・インターンシップの実施状況調査」より)

	中学校職場体験実施状況				
	全中学校数	実施校数	実施率	5 日以上実施校数	5 日以上実施率
兵庫県	269 校	269 校	100.0%	252 校	93.7%
全国	8,754 校	8,249 校	94.2%	1,603 校	18.3%

	職場体験の教育課程等への位置付け (複数回答)			
	教科として実施	総合的な学習の時間として実施	特別活動として実施	教育課程外
兵庫県	2.2%	13.7%	67.2%	16.9%
全国	1.6%	8.3%	7.7%	6.7%

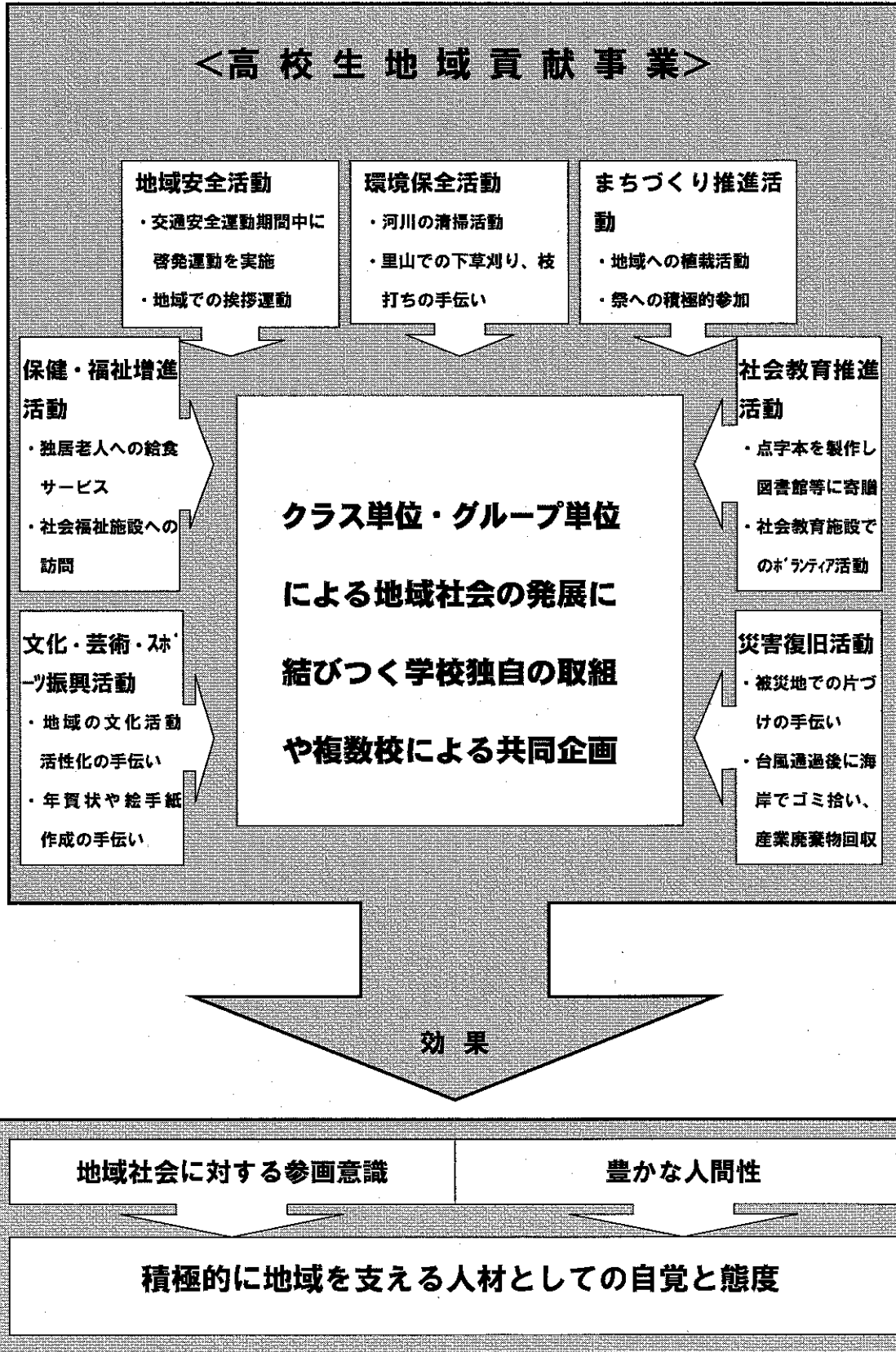
中学校職場体験の成果



## 兵庫型「体験教育」の主要各事業の概要

事業の名称	高校生地域貢献事業～トライやる・ワーク～	担当課	高校教育課	開始年度	平成 17 年度
対象学年	県立高等学校の 1 年生を中心	実施時期・期間		年間 5, 6 回程度	
〔目的〕 時代の変化に合わせ将来にわたって積極的に地域を支える人材としての自覚と態度を養うため、地域社会に貢献できる取組を企画し、「地域社会の力となる」活動を実施して、高校生の地域社会に対する参画意識を高めるとともに、社会性や自主性など豊かな人間性を育む。					
〔活動内容〕					
1 実施概要（平成 21 年度）					
(1) 実施校 全県立高等学校 153 校（うち中等教育学校 1 校）					
(2) 実施内容 年間 5, 6 回程度、各高等学校の 1 年生を中心としたクラス単位によるボランティア活動やグループ単位による福祉活動等、学校独自の企画による活動を積極的に支援する。					
・文化、芸術、スポーツ振興活動・・・・・・・・・・ 135 校（88.2%）					
・保健、福祉増進活動・・・・・・・・・・ 133 校（86.9%）					
・地域安全活動・・・・・・・・・・ 43 校（28.1%）					
・環境保全活動・・・・・・・・・・ 125 校（81.7%）					
・まちづくり推進活動・・・・・・・・・・ 122 校（79.7%）					
・社会教育推進活動・・・・・・・・・・ 37 校（24.2%）					
・災害復旧活動・・・・・・・・・・ 5 校（3.3%）					
(3) 高校生地域貢献事業発表会					
・期 日 平成 22 年 1 月 30 日（土）12:00～16:40					
・場 所 神戸アートビレッジセンター					
・参加者 生徒、事業担当教員、保護者等 283 名（生徒 145 名、教員等 138 名）					
・内 容 県立高校 8 校、東京都立高校 1 校、神奈川県立高校 1 校の生徒による地域貢献活動の発表、発表校の中から、特に優れた内容のものを審査の上表彰 （最優秀賞 社高等学校 優秀賞 津名高等学校、香住高等学校）					
・その他 北須磨高等学校の生徒による司会進行や会場運営 神戸甲北高等学校新聞委員会と北摂三田高等学校新聞部が発表内容を取材し、全県立高等学校に向けた新聞を発行					
2 アンケート等に基づく事業開始当初の主な成果と課題					
(1) 成 果					
・地域住民との交流を通して、地域社会の温かさや良さを知るなどにより地域に対する再認識が図られた。					
・様々な活動を通して社会に貢献していることを実感することで自己有用感を持つことができた。					
(2) 課 題					
・高校生が地域貢献活動の内容や成果を発表したり意見を交わしたりする機会を設けるなどにより、今後もさらに一層充実していく必要がある。					
〔推進体制〕					
各学校において「地域貢献事業推進委員会」を組織し、事業の円滑な実施に向けて関係団体等への協力依頼を行う。					
〔予算措置〕					
平成 22 年度県予算額 74,250 千円（1 校平均 約 46 万円）					

平成 22 年度高校生地域貢献事業 トライやる・ワーカー





## 平成21年度高校生地域貢献事業取組例

### 「はあとふるコミュニティプラン」

県立淡路三原高等学校

地域の老人ホームの方を招き、野点・人形浄瑠璃公演等でもてなす。



### 「小学校安全下校サポート隊」

県立川西高等学校

地域の小学校の児童が安全に下校できるようにサポートする。



### 「森林環境整備事業」

県立山崎高等学校

森林環境科学科が、地域のりんご園裏山の整備活動を実施する。



### 「小学校授業アシスタント」

県立社高等学校

体育科1年生が、近隣の小学校の水泳授業をサポートする。



### 「児童館での児童交流促進」

県立神戸高塚高等学校

地域の児童館で、生徒の企画した催しを実施する。



### 「地域農業文化支援 赤米収穫祭」

県立但馬農業高等学校

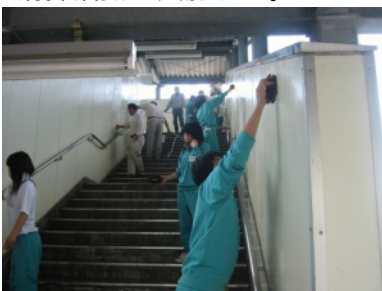
地域おこし事業の赤米を用いた商品開発や販売、田植え祭、収穫祭に協力する。



### 「校外清掃活動（JR 新野駅）」

県立神崎高等学校

地域のロータリークラブ等と合同で駅やその周辺の清掃活動を実施する。



### 「播州織 PR 作戦 小学校への給食服寄贈」

県立西脇高等学校

伝統産業である「播州織」で制作した給食服を地域の小学校に寄贈する。



## 兵庫型「体験教育」の主要各事業の概要

事業の名称	高校生就業体験事業	担当課	高校教育課	開始年度	平成17年度
対象学年	県立高等学校の2年生を中心		実施時期・期間	通年・普通科3日、専門学科5日	
〔目的〕					
「働くこと」への関心・意欲を高めるため、教科・科目、総合的な学習の時間または特別活動等の中で、職業や進路などのキャリアに関する学習の機会を充実し、学校段階でのキャリア教育の推進をはかる。					
〔活動内容〕					
1 実施概要（平成21年度）					
(1) 実施校					
全県立高等学校 156校（うち中等教育学校1校）					
(2) 実施内容					
卒業生や職業人等の講和等を通して生徒自らが将来の職業や将来設計を考えるとともに、企業訪問や職場体験施設等を活用した職業体験等を行うほか、産業の現場などで学習内容や進路に関連したインターンシップを実施する。					
ア 事業所におけるインターンシップの実施・・・・・・・・・・133校（85.3%）					
イ 職業人やキャリアアドバイザーによる進路講演会の実施・・・・・・・・126校（80.8%）					
ウ 地域の職場を見学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・73校（46.8%）					
エ 保護者や地域の人々への職業に関するインタビューの実施・・・・・・32校（20.5%）					
オ 職場調べの実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・55校（35.3%）					
カ 大学等での実地研修の実施・・・・・・・・・・・・・・・・68校（43.6%）					
キ 大学等からの出前授業の実施・・・・・・・・・・・・85校（54.5%）					
ク 職場体験施設の訪問・・・・・・・・・・・・・・12校（7.7%）					
複数回答あり					
(3) 取組事例					
ア 県立姫路工業高等学校（専門学科（工業））					
全員が1年次に1日のミニインターンシップ、2年次には4日間のインターンシップに取り組んだ。全校生徒が1年・2年と継続して体験することにより、インターンシップの効果をより高めた。					
イ 県立氷上西高等学校（普通科）					
2年生全員を対象に、地域の事業所において3日間のインターンシップを実施した。勤労観、職業観を育成するとともに、地域の産業を通して地域社会を理解し、地域に生きる大切さを体験した。					
ウ 県立三木東高等学校（総合学科）					
総合学科として「進化するインターンシップ」を目指し、学校独自のインターンシップ手引き書を作成し、体系的な取組や放課後、夏休みを利用した事前指導、事後指導などを充実させ、毎年、参加希望者が増えている。					
エ 県庁インターンシップ					
県下の県立高等学校生徒54名が、兵庫県庁や兵庫県関係機関、兵庫県警察本部において、5日間の就業体験を実施した。					



学校独自のインターンシップ手



## 2 アンケート等に基づく事業開始当初の主な成果と課題

### (1) 成 果

- ・生徒は、働くことの楽しさや厳しさなどを身をもって体験し、確かな勤労観・職業観を身につけると同時に、社会人としての基本的なマナーを学ぶ機会となり、インターンシップ実施後は学習意欲が高まったという意見が多数あった。
- ・学校は、生徒に学習と職業の関係を理解させることができ、生徒の職業意識や主体的な職業選択能力を高めることができた。
- ・受入企業からは、高校生を育てるのは家庭や学校だけでなく、地域で育てていく必要性を認識するとともに、インターンシップの受け入れを今後も積極的に行っていきたいという意見があった。

### (2) 課 題

- ・職業人やキャリアアドバイザーによる進路講演会や地域の職場を見学するなどの取組を、事業所におけるインターンシップの実施にシフトしていく必要がある。
- ・専門学科でのインターンシップの実績を踏まえ、すべての県立高等学校、特に普通科において事業所におけるインターンシップを推進していく必要がある。

### 〔推進体制〕

#### インターンシップ推進協議会

県経営者協会、連合兵庫等の産業界、関係行政機関等に全県立高等学校で円滑にインターンシップが実施できるよう要請する。〔構成メンバー：兵庫県経営者協会会長等 13 団体代表、兵庫県知事、兵庫県教育長〕

### 〔予算措置〕

平成 22 年度県予算額 12,644 千円（1 校平均 約 8.1 万円）

## 公立高等学校インターンシップ実施状況

(国立教育政策研究所生徒指導センター

「職場体験・インターンシップの実施状況調査」より)

	平成 21 年度インターンシップ実施状況 (実際に事業所等で行う体験活動を対象)		
	全高等学校数	実施校数	実施率
全 国	4,376 校	3,110 校	71.1%
兵庫県	167 校	137 校	82.0%

2 年生インターンシップ体験生徒率 (平成 20 年度間)				
	専門学科	普通科	総合学科	全体
全 国	49.1%	10.2%	25.1%	21.6%
兵庫県	38.5%	11.9%	14.1%	17.2%

インターンシップ体験日数別実施率 (平成 20 年度間)						
	1 日	2～3 日	4～5 日	6～10 日	11 日～29 日	30 日以上
全 国	20.4%	56.2%	17.4%	3.6%	2.0%	0.5%
兵庫県	41.8%	32.2%	14.3%	7.2%	4.4%	0.1%